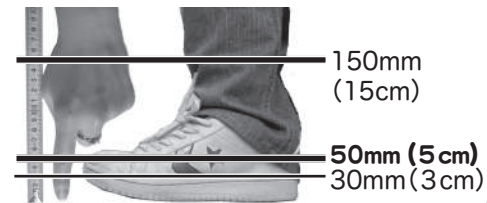


特集 1 情報で変わる もしもの判断 ～あるある的 水害講座～

降水量って？

どこにも流れ出さずに溜まった雨の深さ
測る器の大きさは無関係

ミリだとわかりにくい？



参考：気象庁ホームページ

どれくらいで列車は止まるの？

(1時間の降水量)

地下鉄
雨量に制限はなし



名鉄：50mm以上

新幹線：55mm以上

近鉄：60mm以上

JR：70mm以上で速度を15km以下に制限、速度制限が何回も続く場合状況を見て判断

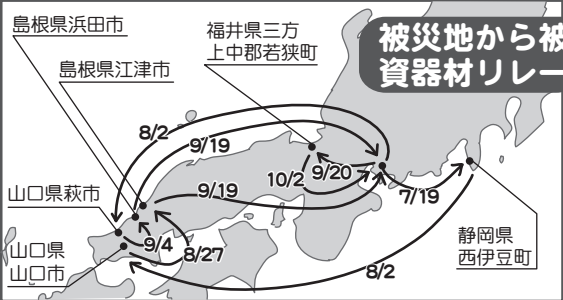
1時間に40mm以上になったら要注意。帰れなくなる前に手を打とう。

雨の強さと降り方の表現

1時間の雨量	人の受けるイメージ	人への影響	災害発生状況	屋外の様子	車運転中の様子	天気予報で使う用語
10～20mm (1～2cm)	ザーザーと降る	地面からのはね返りで足元が濡れる	この程度でも長く続く時は注意が必要	地面一面に水たまりができる	ワイパーを速くしても見づらい	やや強い雨
20～30mm (2～3cm)	どしゃ降り	傘をさしていてもぬれる	側溝や下水、小さな川があふれて小規模の崖崩れが始まる			強い雨
30～50mm (3～5cm)	バケツをひっくり返したように降る		山崩れ・崖崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる	道路が川のようになる	高速走行中にブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)	激しい雨
50～80mm (5～8cm)	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険	非常に激しい雨
80mm～ (8cm～)	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる	東海豪雨や9/4*の大雨はこのレベル！	地下街や地下室で死亡事故が起こったり、停電などで都市機能がマヒするおそれなど、厳重な警戒が必要			猛烈な雨

※2013.9.4 名古屋市：1日総雨量73mm/最大1時間降水量55mm 大垣市：1日総雨量163mm/最大1時間降水量108.5mm
2000.9.11-12 東海豪雨：1日総雨量428mm/最大1時間降水量97mm/総降水量566.5mm (気象庁より)

被災地から被災地へ 資器材リレー



9/4名古屋市の大雨の対応 約2.5ヶ月の資器材リレーの最中、名古屋市でも時間100mmを越える大雨に見舞われました。2000年の東海豪雨を彷彿とさせ、市内全域に避難準備警報が発せられ、RSY事務所近くの交差点も冠水しました。翌日には、日頃のネットワークを活かし、名古屋市、市社協、各区の災害ボランティアが集まり、被害状況の把握と今後の動きについて話し合われました。名古屋市内では、236件*の床上浸水がありましたが、雨が止むと一気に水が引く都市型水害でも

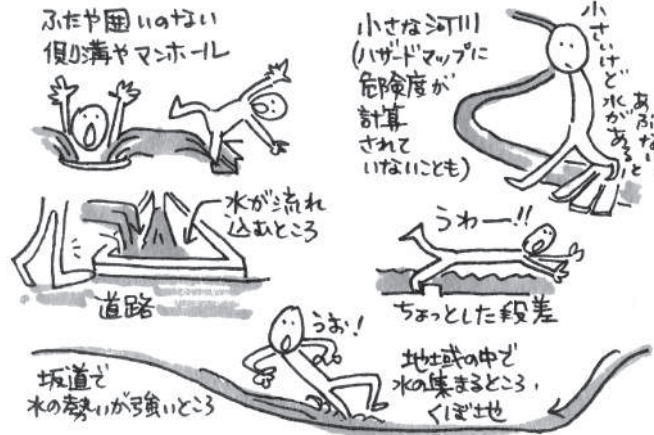
今年は全国各地で大雨や台風による被害が多発しています。RSYでも関係団体と協力し、各所にスタッフ派遣を行いました。そして、人以上に動いたものが、名古屋市災害ボランティア連絡会で保有する、スコップやバケツ、軍手などの「災害ボランティア活動資器材」です。7月中旬の静岡県西伊豆町への搬出をはじめ、山口県、島根県、福井県と計6ヶ所で活躍してきました。また、被災地から被災地へリレーする形で、お互いに頑張ろうという思いが込められた資器材が届けられました。

あり、大雨直後は実際にどこまで浸水したのかわからない状況がありました。そのため、被害状況や現状から考えボランティアセンターは設置せず、市社協に窓口を設け、依頼があれば各区の災害ボランティアが対応する方向で方針が決められました。また、直接的な支援と並行し、床上浸水被害が多いことが確認できた区を中心に、状況調査とニーズ把握のために町中を歩き声かけしていきました。8日で一時活動を終えましたが、以降も窓口は継続し、依頼があれば対応を考えていく考えです。

*9/19名古屋消防局発表

参考HP：◆政府公報オンライン◆気象庁

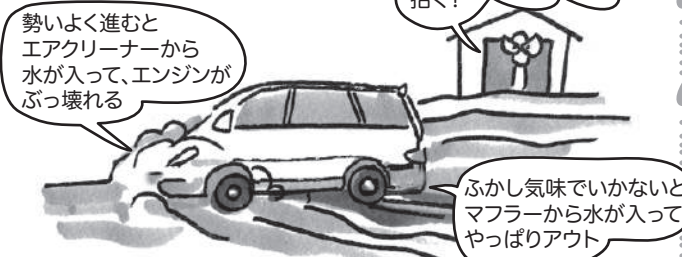
どれくらいが危険なの？



普段からチェックしておこう！

- ・近くの川の水位
 - ・自宅、避難場所周辺の標高
 - ・洪水ハザードマップで自宅の浸水予測を調べる
 - ・過去の水害の経験を知る
 - ・一時避難できそうな高い建物
 - ・避難所までのルート
- (状況に合わせて複数考えよう)

運転は控えて車を高台へ



情報を上手に利用しよう

気象庁が出す情報のタイミング

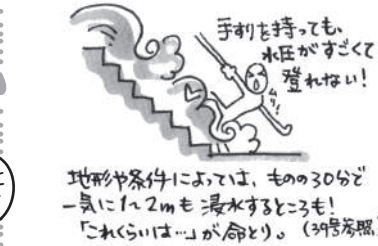
翌日には大雨の可能性が高くなる	大雨に関する気象情報 (警報注意報に先立ち発表)
半日～数時間後に大雨が始まる、強さが増す	大雨注意報
数時間～2時間後に大雨が始まる、強さが増す	大雨警報 (大雨の期間、予想雨量、警戒を要する事項などを示す)
大雨が一層激しくなる	大雨に関する気象情報
記録的な大雨出現	記録的短時間大雨情報 (数年に一度の猛烈な雨が観測された場合に発表)
被害の拡大が懸念される	土砂災害警戒情報
数十年に一度の大災害が起こると予想される	大雨特別警報 (ただちに命を守る行動をとる必要がある場合に発表)

数時間後に車で移動する予定だったけど…今動いた方がいいな！

↑情報が流されるかある程度知っておけば、行動を決めることができる

←2013年8月30日より開始

はやめのひき金を！



地下鉄は東海豪雨までの雨量ならば排水できる設計になっているとのこと。とはいえ、停電すれば排水機能が停止する可能性も。雨の降り方、地形によってもやはり油断は禁物。浸水する「かもしれない」という意識で行動を。

◆知りたい場所の標高が分かる 電子国土Web.NEXT

◆雨雲レーダーで雨を予測！ 天気JP 日本気象協会

◆リアルタイムで状況を確認！ 名古屋市×ウェザーニュース「なごや減災プロジェクト」

避難は外に逃げるだけじゃない

9/4、名古屋市全域の「避難準備情報」が出たけど、100万人以上もどこへ逃げるの！？

水害による避難は必ずしも避難所に逃げるだけではありません。家の1階から2階に上がることも避難。夜間や増水してからやみくもに外に出ることは、かえって水に流されて危険な場合も。自分のいる場所がどういう状況なのか、落ち着いて考えて避難をしましょう。